

ヨーロッパ視察報告＜3＞

視 察 項 目	社会福祉、社会保障について
視 察 日 時	2024年11月5日（火） 午後3時00分～4時00分
視 察 先 名	ディメンシア UK
説 明 者	カロライン スキャッツ氏
担 当	那須野 純花

【はじめに】

現在の日本において高齢化の進行に伴い、認知症に関する課題が年々増加しており、社会全体で支援体制を整えることが喫緊の課題となっている。一方、福祉先進国としてのイギリスは、同じ課題を抱えながらも、1990年代以降、認知症政策の改革をいち早く進めてきた。

イギリスでは、認知症患者とその家族の生活の質を向上させることを目的に、さまざまな施策が講じられている。2009年には「認知症とともに良き生活を送る認知症国家戦略」を発表し、認知症患者とその家族が地域で充実した生活を送れるよう支援する取組を進めた。その結果、地域の一次医療機関における認知症診断率の向上や、抗精神病薬の処方率低下といった成果が報告されている。

また、認知症ケアの効率化と資源配分の最適化を図るため、福祉サービスの公的部門と私的部門を統合的に活用する体制の構築が目指され、課題解決に向けた先進的な取組を通じて、認知症患者とその家族の支援体制を着実に強化している。

その特徴として、イギリスでは非公的介護者の役割が重要視されている。家族を中心とするこれらの介護者は、地域における在宅ケアの中核を担い、その重要性が再確認され、介護サービスの拡充だけでなく、公的サービスと私的サービスのバランスを考慮しながら、効果的で包括的な福祉支援を提供する方向性が進められている。

以上のことから、認知症ケアに関して多くの革新的な取組について実践的な成果を拝見するとともに、より効果的な支援方法や新たな視点を

得るため、ディメンシア UK の現地視察を行った。

【ディメンシア UK の概要】

ディメンシア UK (Dementia UK) は、認知症に特化した慈善団体として英国全域で活動しており、認知症患者やその家族への支援において重要な役割を担っている。認知症患者やその家族を 1 対 1 で支援する「アドミラルナース (Admiral Nurses)」を中心とした活動を展開している英国唯一の慈善団体である。同団体の資金源は、政府からの支援ではなく、寄付や企業パートナーシップ、イベント収益、遺産寄付、ロトリー (宝くじ) などの募金活動によって賄われている。

【主な調査内容】

世界保健機構 (WHO) によると、世界規模では約 5,500 万人、英国では約 98 万人が認知症を抱えており、2030 年までに約 120 万人に増加すると見込まれている。

認知症は治療法がなく、記憶喪失、コミュニケーション能力の低下、理解力の減退などが主な症状である。進行性で命に関わる疾患であるため、早期発見と包括的なケアが重要とされている。

＜アドミラルナースの取組について＞

包括的な支援として、全国に 455 名のアドミラルナース (認知症ケアの専門看護師) を配置。地域、病院、ケアホーム、ホスピスなどさまざまな環境で支援を提供している。

ヘルプラインは年中無休で対応 (クリスマスを除く)。特に家族からの相談に応じ、法律や経済的な問題への助言も行っている。

予約制のクリニックサービスを提供し、働きながら家族を支える人々が時間を確保して専門看護師と話せる環境も整備している。

新たな取組としては、若年認知症や 18 歳以下の若いケアラーへのサポートプログラムを開始。特に子どもたちが学校に通いながら認知症の家族を支える状況に注目している。企業との連携については、銀行支店

内にアドミラルナースを配置する新しいサービスを展開している（全国200支店で実施）。

その他、政策提言も行い、議会でのロビー活動を通じて、認知症に関する政府支援の強化を求めるキャンペーンを実施。英国政府が策定するNHS（国民保健サービス）の10年計画に対し、認知症ケアに必要な具体的提言を行っている。

What do Admiral Nurses do?

In the core areas of practice, Admiral Nurses provide:

- A family and relationship centred approach
- Specialist assessments and evidence-based interventions for families affected by dementia with complex needs
- Clinical, psychological and social support for family carers and people living with dementia, particularly during periods of transition
- Liaison with other professionals/organisations
- Education, consultancy and supporting changes in practice



 Community	 Care home	 Admiral Nurse Dementia Helpline	 Acute Hospital	 Hospice	 Admiral Nurse Clinics
Support people with dementia to live at home Coordinate care/case management Help transition into care if required Deliver education and collaborate with agencies to improve quality of care Post diagnostic support with families	Support families in the community Identify those with complex needs Manage co-morbidities and frailty Provide education, coaching and training to care home staff Facilitate a positive culture within care homes	One-to-one support and advice for families, professionals and others affected by dementia UK-wide Support to families affected by dementia who do not have access to an Admiral Nurse in their locality Provide direct access to an Admiral Nurse through telephone and email seven days a week: 9am-9pm Monday to Friday and 9am-5pm at weekends	Support of family carers in hospital Manage co-morbidities and frailty Provide education for hospital staff Work alongside and support clinical/ward staff Preventative management of risks to health Facilitate effective discharge Support transitions	Support of family carers in hospice Identify and support complex end of life care challenges Provide education to hospice staff and carers on end of life care and dementia Support of carers during transitions Raise awareness of dementia being a life-limiting illness	Support for family carers in community settings Provide advice on complex care issues Signposting to other services Case management Workforce carer support and advice

【直面する課題と対応策について】

ディメンシア UK では、英国が直面しているいくつかの課題に対し、独自の手法により対応を進め、認知症患者やその家族に対する支援体制強化を目指している。

1. 看護師不足

全国的な看護師不足が深刻化しており、特に認知症ケアの専門知識を持つ看護師の確保が困難な状況である。この課題に対し、ディメンシア UK は独自に「アカデミー」を立ち上げ、専門的な知識を持つ看護師の育

成を進めている。認知症患者に対する質の高いケアを提供するため、人材育成による現場支援の体制強化を行っている。

2. 地域格差

NHS による医療サービスが地域ごとに不均衡であり、認知症診断やケアを受けるまでに長期間を要するケースが散見される。ディメンシア UK は、この地域格差を補うため、ヘルプラインやクリニックでの対応を強化し、より多くの人々がアクセスできる支援を提供している。また、地域のコミュニティ内で活動するアドミラルナースを増員し、地域に密着した支援体制を築く方針を進めている。

3. 認知症に関する理解不足

認知症やその支援体制に関する情報が十分に周知されていない現状があり、支援を必要とする家族がどこに相談すべきか分からないケースが多く見られる。この問題に対して、ディメンシア UK はインターネットやキャンペーンを通じて情報発信を強化している。さらに、地域の企業や団体と連携し、認知症への理解を深め、支援を必要とする家族がアクセスしやすい環境整備を行っている。

4. 組織の規模と歴史

ディメンシア UK は 1980 年代後半に設立され、現在では年間予算が約 4,400 万ポンド(約 66 億円)に達し、過去 5 年間で急速に成長を遂げた。本部はロンドンにあり、活動は英国全土(スコットランド、ウェールズ、北アイルランドを含む)に展開されている。しかし、現場での看護師数が依然として不足している地域があり、この地域格差に対応するため、引き続き人材の育成と地域への支援拡大が求められている。



ロンドン本部室内でカロライン氏とともに

【質疑・応答】

Q 1 : (ディメンシア UK を知る機会について)

ディメンシア UK の活動やヘルプラインの存在を、一般の人々がどうやって知ることができるのか？

A 1 : ディメンシア UK は小規模な団体であり、認知度の向上が課題。一般の人々は主に Google 検索を通じて情報を得ているため、「ディメンシア (認知症)」をキーワードに検索すると、ヘルプラインの詳細などが表示されやすくなるよう工夫している。チャリティーとしても認知症支援を広める努力をしているが、十分に知られていない現状もまだある。

Q 2 : (サポートを受けている人数について)

ディメンシア UK のサービスを通じて、1 か月あたりどの程度の人数が支援を受けているのか？

A 2 : ヘルプラインには年間で約 35,000 件の電話が寄せられてる。地域で活動するアドミラルナース 1 名がサポートできる家族は、1 か月あたり約 35~40 世帯。病院勤務のアドミラルナースの場合は、家族のケアではなく、医療スタッフへの指導や支援に重点を置いている。

Q 3 : (看護師不足への対応について)

認知症ケア専門の看護師不足が課題だが、どのようにして人材を確保しているのか？

A 3 : 英国全体で看護師不足が深刻化しており、特に認知症ケアは魅力的な職場と見られにくい現状がある。ディメンシア UK は、「認知症ケアは患者だけでなく家族全体を支える重要な仕事」という視点を広め、看護師に魅力を感じてもらおう努力をしている。採用後は、ディメンシア UK 独自の「アドミラルナースアカデミー」で教育し、必要なスキルと知識を身につけてもらっている。

Q 4 : (アルツハイマー病協会との関係性について)

ディメンシア UK とアルツハイマー病協会 (Alzheimer's Society) の違いや関係性は？

A 4 : アルツハイマー病協会は、キャンペーンや啓発活動、アドバイザー提供に注力している。一方、ディメンシア UK は認知症ケアに特化した専門看護師による直接支援を提供している。両団体は「One Dementia Voice」という枠組みで協力し、包括的な認知症支援を進めている。

Q 5 : (NHS との連携について)

認知症が疑われる場合、患者は最初に GP (かかりつけ医) を受診するが、ディメンシア UK はどのタイミングで関与するのか？

A 5 : 患者は GP を通じて「メモリーサービス」に紹介され、診断を受けるまでに 6～9 か月かかる場合がある。地域にアドミラルナースがいる場合、診断後の家族支援を行う。ただし、ナースがいない地域では、他団体やヘルプラインを活用した支援が提供される。

Q 6 : (クリニックについて)

ディメンシア UK のクリニックサービスの詳細は？

A 6 : クリニックは予約制で、働いている家族が指定した日時にアドミラルナースと面談できる。新しい取組として、ネーションワイド (銀行) の支店にナースを配置し、顧客が銀行を訪れた際に相談できる仕組みを導入している (全国 200 支店)。

Q 7 : (年間予算について)

ディメンシア UK は政府支援を受けていないが、年間予算はどの程度か？

A 7 : 年間予算は約 4,400 万ポンド (約 66 億円) で、過去 5 年間で急成長した。寄付や企業との提携による資金調達が中心となっている。

Q 8 : (若年層の支援について)

若年認知症や若いケアラーへの支援はあるのか？

A 8 : 最近では若年性認知症が増加しており、その影響を受ける 18 歳以下の若いケアラーのサポートプログラムを開始。学校に通いながら親の認知症ケアを行う子どもたちへの心理的・社会的支援が重要視されている。

Q 9 : (地域の支部について)

ディメンシア UK には地方支部があるのか？

A 9 : 本部はロンドンにあり、全国にアドミラルナースを配置している。ただし、地方ではまだナースの数が十分ではない。ヘルプラインやリモートワークを活用し、全国的な支援体制を整えていく。

【総括】

ディメンシア UK は、英国における認知症ケアの最前線に立つ重要な存在として、患者本人だけでなく、その家族の生活の質向上にも大きく寄与している。その活動は、政府支援に依存せず、寄付やパートナーシップによって支えられている点で、持続可能なモデルの一例ともいえるのではないかと考える。一方で、看護師の人材不足や地域格差といった課題への対応が引き続き求められている。同団体のアプローチは、地域に密着した支援やリモートワークの活用など、柔軟かつ効果的な解決策を模索するものとなっている。日本を含む他国においても、ディメンシア UK の取組は、日本国内の認知症ケアのモデルケースとして非常に参考になると考える。以下に、本市での応用可能性を含めた提言をまとめる。

・地域密着型支援の拡充

英国では地域ごとのサービス提供に差がある中、ディメンシア UK は、地域に根ざしたケア提供とリモート技術を駆使して補完している。本市においても、各区の地域包括支援センターや民間団体との連携を強化し、支援体制の地域格差を是正することが求められる。

・専門職育成とアカデミーの設立

ディメンシア UK のように、認知症ケア専門の看護師を育成するアカデミーの設立は、本市では難しいと考える。ただ、地域の医療従事者に対する継続教育の仕組みを整え、認知症ケアの質を向上させることが課題解決の一步となるのではないかと考える。

- ・若年層やケアラーへの支援強化

本市でも若年性認知症患者やその家族の支援は限定的で、特に若いケアラーへの心理的・社会的サポートを提供する仕組みは、導入が必要と考える。本市では、小学生・中学生向け認知症サポーター養成講座があるが、ディメンシア UK が行う 18 歳以下のケアラー支援は、その先進事例といえる。

- ・電話相談や予約型クリニックの導入

ヘルプラインや予約制クリニックといった柔軟な支援方法は、本市の若年生認知症支援コーディネーター利用者にも適した取組である。特に、働く家族が相談しやすい環境を整備することで、支援の効果を高められると考えられる。

- ・官民連携の推進

ディメンシア UK が企業とのタイアップによって資金や人的リソースを確保している点は、本市でも参考になる。企業 CSR などを活用し、認知症ケアに貢献するプロジェクトの推進を検討するなど、経済労働局との連携も視野に入れることで区局間を超えたサポート拡充に繋げる必要がある。

視察を通じ、認知症ケアの現場が抱える課題や先進的な取組について学んだ。同団体の活動はケアの提供にとどまらず、政策提言や社会的認知の向上にも取り組んでおり、その包括的かつ柔軟な姿勢は、文化を超えて学ぶべきモデルケースと言える。

本市でも、地域格差の是正、人材育成、若年層への支援強化など、認知症ケアの向上に向けた取組が求められている。今回の視察で得た知見を市政に反映させ、より発展的なケアシステムの構築に活かしていくことが期待される。